

老舗発掘調査最前線

特集

## 墨書土器

(柿田遺跡)

2004年度調査事業計画

### のぞいてみよう! 今年の遺跡

考古学教室①

二ノ井遺跡の中世遺物

センター掲示板

2004センター年間行事計画ほか

情報BOX

親子で発掘・整理体験!(タイムスリップ探検隊募集のお知らせ)ほか





## かき だ 柿田遺跡の墨書土器

# 土器に記された謎に迫る!!

### “いわ”って何だろう?



「いわ」と記された小皿(柿田遺跡)

柿田遺跡では、「いわ」と墨書された土器が20点以上も見つかりました。この「いわ」の文字は、何を示すのでしょうか?

はじめは、「いわ」は人名で、この土器の所有者を示しているのではないかと考えました。しかし、これらの「いわ」の墨書を比較すると、右上の図のように書体が幾通りもあることが分かりました。このことは、「いわ」の墨書が、一人によるものでなく、複数の人による筆跡であることを示しています。よって、「いわ」の墨書が所有者を示すものであるとは考えにくくなります。では、どういう意味で「いわ」と墨書したのでしょうか? その手がかりになるのが、中世の館跡付近で出土した下の墨書土器です。

花押の上に「上」という文字が書かれています。「上」は、一字で「たてまつる」と読み、「(目上の対象に)さしあげる」という行為を意味します。また、花押は解読できませんが、それをを用いる人物は、その土地でもかなりの有力者に限定されます。

このことから、この墨書土器は、柿田の有力者(おそらく館の主)が「目上の対象」である神仏にお供え物を盛るため、つまり祭祀に用いたものではないかと考えられるのです。

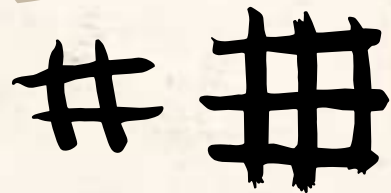
「いわ」の墨書土器も館跡付近で出土していることから、おそらく「上+花押」の墨書土器と同様に祭祀のために用いられたのではないかと、という推測が可能です。館の主を中心に、「いわ」という共通の言葉を用いる村の集団が、神仏に祈りを捧げる姿を、これらの墨書土器から想像してみました。



「上」と花押が記された碗(柿田遺跡)



### 魔よけ・まじないに用いられた墨書土器



右の山茶碗(小皿)の外面には、たくさんの記号や文字のようなものが記されています。どんなことが書かれているのかは分かりませんが、まじないに関するものではないかと思われます。また、上の図の「#」や「井」は邪気や魔物を迷路に迷わせる魔よけの記号と考えられています。これらの魔よけ記号の書かれた墨書土器も数多く出土しました。

中世では、魔よけやまじないに「呪符木簡」(語句解説欄参照)という木簡が用いられたことが有名ですが、柿田遺跡で出土したこれらの遺物は、不明な点が多かった中世の墨書土器の謎に迫る貴重な考古学資料となるに違いありません。



まじないの記号が記された小皿(柿田遺跡)

### 墨書土器とは

墨で文字や記号を書いた土器を「墨書土器」といいます。古墳時代前期と思われる出土例もありますが、一般には飛鳥時代からみられるようになり、最も多いのは古代(奈良時代~平安時代)です。古代では、土師器や須恵器、灰釉陶器の杯・碗・皿・盤といった食器にみられます。

最近では、東海地方を中心に中世(鎌倉時代~室町時代)の遺跡からの出土例も増えてきました。主に山茶碗の碗や小皿にみられます。墨書されている内容は、官職・建物・人物・食品の名称や、1文字から数文字の表記でそれだけでは意味の分からないものなどがあります。1文字の例では、「大」、「富」、「万」などの縁起のよい内容を示すものと、「※」、「井」など記号と思われるものがあります。縁起のよい内容を示す文字は、古代から中世まで時代を問わず、また各地の遺跡から出土しています。

墨書土器の出土例は枚挙に暇がありませんが、「どのような意図で墨書したのか」が分からないものが多く、謎の多い遺物です。

### 柿田遺跡と墨書土器

柿田遺跡の調査では、弥生時代~近世の遺構や遺物が数多く発見されました。なかでも中世の館跡や集落跡などの遺構や、20万点にも及ぶ中世の遺物の発見は、特筆すべき成果です。

また、出土した遺物の中には、墨書土器や木簡のように文字が記されたものがありました。特に中世の墨書土器は約850点にもものぼり、全国的にみても注目に値する出土量といえます。



柿田遺跡(可児市・御嵩町)



有力者のものと思われる中世の館跡(柿田遺跡)

### 用語辞典

#### 花押

花押は個人のサインを記号化したもので、名前の漢字をくずしたり、偏や傍の一部を組み合わせたりしてつくります。身分の高い人が、主に文書の終わりに自分のサインとして用いました。

#### 山茶碗

11世紀後半~15世紀にかけて東海地方で焼かれた釉薬をかけられていない陶器です。

#### 木簡

木の板に墨で文字を記したものです。木簡には、荷物につけられた「付札木簡」や手紙として用いた「文書木簡」、まじないに用いた「呪符木簡」などがあります。平城京跡のような古代の都の跡から出土するものも有名ですが、柿田遺跡からも中世の木簡が見つかっています。



柿田遺跡出土 木簡



柿田遺跡出土 付札木簡

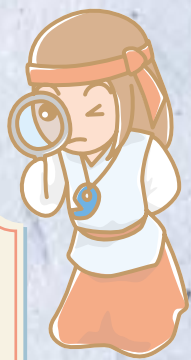


後田遺跡出土 呪符木簡

後田遺跡・大道下遺跡 第2次発掘調査報告書 1997(財)山形県埋蔵文化財センター

背景の文字は柿田遺跡出土の墨書をトレースしたものです

## のぞいてみよう! 今年の遺跡



**1 太江遺跡** (飛騨市) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

古代寺院跡の周辺に広がる集落跡です。大型の建物跡などを発見しました。土器類、瓦、鉄製品などが多数出土しました。墨で「高家寺」と書かれた食器など貴重な遺物も見つかっています。

事業者:岐阜県基盤整備部古川建設事務所  
事業名:主要地方道神岡河合線道路改良

**2 中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳・中野山越遺跡・西ヶ洞廃寺跡** (飛騨市) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

縄文時代～平安時代の4遺跡です。縄文～古代の竪穴住居跡、古墳時代末期の方墳、平安時代の山林寺院跡が見つかりました。西ヶ洞廃寺跡は丘陵の南側、他の遺跡は同じ丘陵の北側にそれぞれ隣接して位置し、遺跡間の距離は4km程度です。

事業者:岐阜県基盤整備部飛騨地域農山村整備事務所  
事業名:県営農道整備事業(古川南部2期)

**3 赤保木遺跡** (高山市) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

扇状地の緩斜面にある縄文時代～古代にかけての集落跡です。試掘確認調査では、竪穴住居跡や縄文土器、弥生土器などが見つかりました。広い範囲で多数の竪穴住居跡などが見つかるかと予想され、ここに暮らした昔の人々の生活が見えてくるのが楽しみです。

事業者:国土交通省高山国道事務所  
事業名:中部縦貫自動車道建設

**4 野内遺跡** (高山市) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

平成14年度から始まった調査の3年目です。高山市上切町の山ぎわに広がる2つの地点で調査をしています。南の地点では、昔の川の跡から須恵器や木製品が出土しています。また、北の地点は奈良～平安時代の集落跡と考えています。須恵器や灰釉陶器などが出土します。

事業者:国土交通省高山国道事務所  
事業名:中部縦貫自動車道建設

**5 塚奥山遺跡** (藤橋村) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

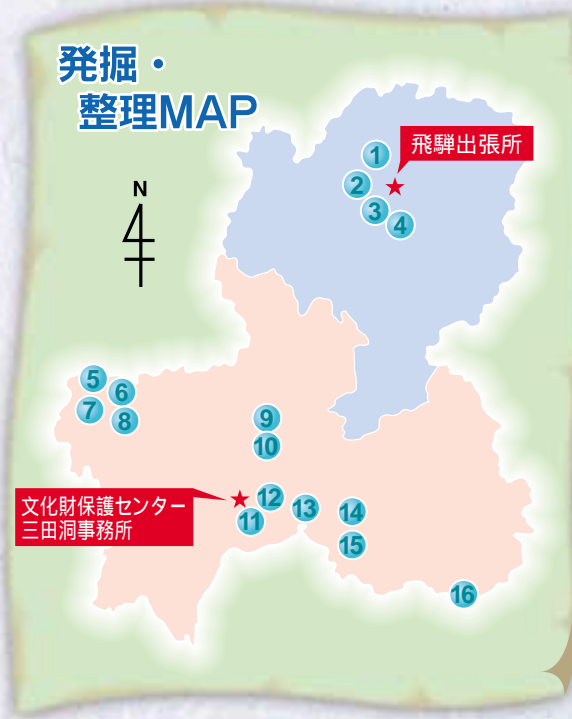
この遺跡は、ダムに沈む遺跡の中で最も奥にあります。1つの遺跡で縄文時代におけるほぼ全ての時期の土器が出土したため、これらを時代順に並べると縄文土器の移り変わりがよくわかります。

事業者:水資源機構徳山ダム建設所  
事業名:徳山ダム建設

**6 榎原村平遺跡** (藤橋村) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

この遺跡は、揖斐川の最上流部にあります。今年度は、給食のパンケースで300箱分以上も出土した遺物のうち、陶器類の整理作業からはじめています。室町時代前後に使われていた甕や鉢は越前(今の福井県)の物が多く、峠越えの交流を伺い知ることができます。

事業者:水資源機構徳山ダム建設所  
事業名:徳山ダム建設



**9 清願寺遺跡** (美濃市) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

美濃市大字横越字清願寺に所在する遺跡です。地名からも分かるように寺の跡である可能性が高く、試掘確認調査でも中世の山茶碗や寺の基壇と思われる遺構が確認されました。本格的な調査は今年度の秋から行う予定です。

事業者:岐阜県基盤整備部美濃建設事務所  
事業名:急傾斜地崩壊対策事業

**10 八幡前遺跡** (美濃市) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

美濃市南部の松鞍山の麓(南西部)にある縄文時代後期～弥生時代の集落跡の存在が予想される遺跡です。地表面には下呂石製の石器片が散布し、試掘確認調査では、縄文時代後期～晩期の土器片と石器片が出土しています。

事業者:岐阜県基盤整備部美濃建設事務所  
事業名:県道富加美濃線道路改良

**7 榎原神向遺跡** (藤橋村) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

揖斐川右岸の河岸段丘上にあり、榎原村平遺跡の対岸に位置しています。縄文時代早期の土器や石器が見つかりました。土器の表面には彫刻を施した丸い棒を回転してつけた、「押し文」という文様があります。

事業者:水資源機構徳山ダム建設所  
事業名:徳山ダム建設

**8 いじま遺跡** (藤橋村) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

揖斐川にそそぐ支流、扇谷沿いにあります。狭い場所ですが、縄文時代中期後半の竪穴住居跡6軒や配石遺構などが見つかりました。遺物は縄文時代早期や中期の土器、たくさんの石器が見つかりました。

事業者:水資源機構徳山ダム建設所  
事業名:徳山ダム建設

**11 七反田番場山古墳群** (岐阜市) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

古墳時代後期～終末期にかけての群集墳のうち、3基の円墳を調査しました。2基が横穴式石室、1基が木棺直葬であり、土師器や須恵器などの遺物が出土しました。

事業者:岐阜県基盤整備部岐阜建設事務所  
事業名:主要地方道岐阜美濃線番場山トンネル工事

**12 大杉西遺跡** (関市) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

縄文時代～弥生時代の集落跡を発見しました。とくに、これまで県内であまり発見されていない、縄文時代の掘立柱建物跡や弥生時代の方形周溝墓などを確認しました。

事業者:岐阜県基盤整備部美濃建設事務所  
事業名:一般国道248号関バイパス道路改良

**13 東野遺跡** (坂祝町) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

昨年度調査区の西と南を発掘調査します。昨年度の調査では、縄文・古墳時代の竪穴住居跡20軒、古墳時代の掘立柱建物跡12棟などを確認しました。今年度の調査で、古墳時代における集落の広がりの様子がさらに明らかになるのではないかと期待しています。

事業者:岐阜県基盤整備部多治見砂防国道事務所  
事業名:一般国道248号太田バイパス(坂祝町)道路改良

**14 上恵土城跡・浦畑遺跡** (御嵩町) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

鎌倉時代～江戸時代の集落跡です。室町時代の掘立柱建物跡や井戸跡、土塁などを確認しました。東西に細長い調査区で、小石が入った地境溝も見つかりました。今年度、遺跡の出土物を整理していく中で、中世～近世にかけて、集落の移り変わりが確認できるかもしれません。

事業者:国土交通省多治見砂防国道事務所  
事業名:一般国道21号可児御嵩バイパス建設

**15 柿田遺跡** (可児市・御嵩町) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

縄文時代～近現代の集落跡や水田跡などを発見しました。特に、古墳時代～室町時代にかけて、水路を制御した灌漑施設とともに集落の移り変わりをたどることができ、連続と続く人々の生活の様子が復原できます。

事業者:国土交通省多治見砂防国道事務所  
事業名:東海環状自動車道(八百津～笠原)建設

**16 大平遺跡** (串原村) 縄文 弥生 古墳  
古代 中世 近世

弥生時代前期と思われる土器棺墓(甕)の中に子どもを埋葬したと考えられている4基をはじめ、縄文時代中期末～後期初頭にかけての墓と思われる土坑が見つかりました。縄文時代～弥生時代にかけての墓域であったと考えられます。

事業者:岐阜県基盤整備部恵那建設事務所  
事業名:県道下明智線道路改良

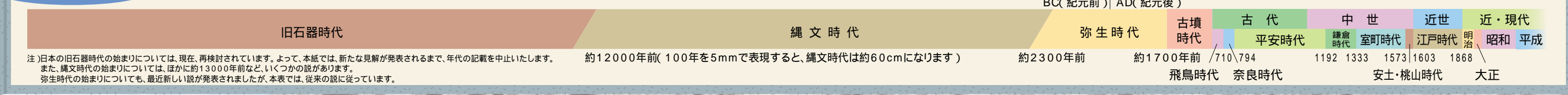
**凡例**

事業マーク: 発掘 (手掘りマーク), 整理 (手洗いマーク)

時代マーク:

- 縄文 縄文時代 (縄文)
- 弥生 弥生時代 (弥生)
- 古墳 古墳時代 (古墳)
- 古代 古代 (古代)
- 中世 中世 (中世)
- 近世 近世 (近世)

### 日本の時代区分表



# 二ノ井遺跡の中世遺物

～中国産天目茶碗と石鍋～



小野木 学

二ノ井遺跡は揖斐郡池田町片山字南高野に所在し、平成7～8年に当センターにより発掘調査がなされ、平成12年に調査報告書が刊行されました。遺跡からは縄文時代～室町時代にかけての遺物(当時の人々が使用していたモノ)が出土し、特に鎌倉時代～室町時代の土器が多く見つかりました。また、室町時代の遺構(当時の人々の生活の跡)として、幅約3.0m、深さ約0.8mのL字状に曲がる溝を発見しました。このような大きな溝は、身分の高い人々が住んでいた館の周囲に巡ると考えられています。

この室町時代の溝からは、人々が日常的に使用していた山茶碗やまぢやわんの碗わんと小皿こざらという食器や、宴会などで使用する土師器皿はじきざらという素焼きの皿、中国で生産され日本に流通した青磁せいじや白磁はくじなどが出土しました。そのなかでも、出土事例が稀な遺物として「中国産の天目茶碗」と「石鍋」があります。

天目茶碗は抹茶を飲むための茶碗の一つで、中国にある天目山の禪院で使用された黒褐色の茶碗を、日本の禅僧が持ち帰って天目と呼んだとされています。茶碗の底に付けた台こたらいが小さく、口付近こうえんぶはいったん内側にすぼまり、再び外側に開く形をしています。中国産の天目茶碗は、平安時代末(12世紀前半)頃に博多に伝来し、鎌倉時代中頃(13世紀中頃)以降、博多以外の地でも出土例が増加します。一方、日本産の天目茶碗は、現在の愛知県瀬戸市や岐阜県多治見市を中心とした瀬戸美濃窯で鎌倉時代後半(13世紀末)より生産が始まりました。中国産の天目

茶碗は、使われている土がきめ細かく黒っぽい色をしているので、日本産のものと区別できます。

石鍋は外側に幅広の鐶つばがつく煮炊きの道具で、主に長崎県で作られて全国に流通したと言われています。石鍋は滑石かっせきという軟らかい石から作られ、平安時代後半頃(10世紀末)より使用されました。当時は、石鍋が4個で牛1頭と同じ値段になるほど高価なものであったとされています。

さて、これまでに岐阜県内では、約600もの中世(主に鎌倉時代～室町時代)の遺跡を発掘調査し、膨大な量の遺物が発見されています。しかし、中国産の天目茶碗と石鍋の出土遺跡を集めると、両者ともに7～8遺跡のみであり、その出土数は極めて少ないことがわかりました(表1)。出土した遺跡の性格は、尾崎城跡のような城跡、江馬氏館跡や東氏館跡、鷲山仙道遺跡などの館跡、重竹遺跡や角之御前遺跡など地域の拠点となるような集落跡などがあります。つまり、これらの遺物は寺・城・館・拠点集落など、当時でも限られた場所でしか使用されていなかったことがわかります。そして、このような場に住み得た人物は、それなりの身分や階層であったと思われます。

中世において、二ノ井遺跡周辺に存在していた権力者の記録は不明です。しかし出土した遺物は、当時、遺跡周辺に住んでいた人々のことを物語ってくれます。

図1 二ノ井遺跡出土の中国産天目茶碗(左)と石鍋(右)

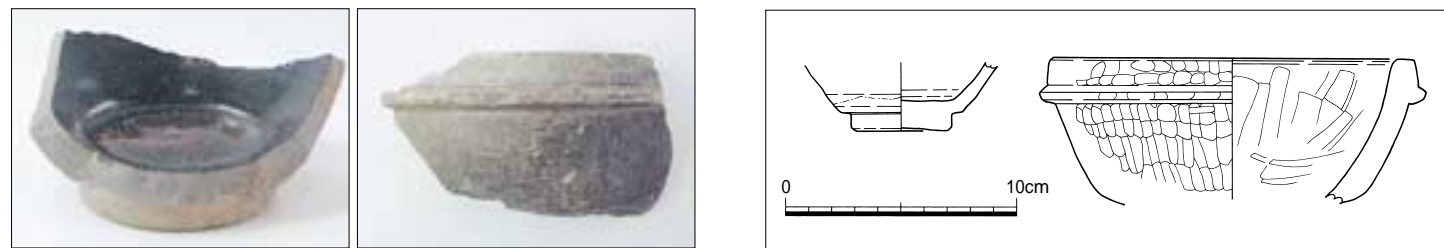


表1 岐阜県内の中国産天目茶碗・石鍋出土遺跡一覧

| 番号 | 遺跡名      | 所在地  | 中国産天目茶碗 | 石鍋 | 文献  |
|----|----------|------|---------|----|---|
| 1  | 岐阜城千疊敷遺跡 | 岐阜市  |         |    | 岐阜市教育文化振興事業団2000『千疊敷』                         |
| 2  | 鷲山仙道遺跡   | 岐阜市  |         |    | 岐阜市教育文化振興事業団2002『鷲山仙道遺跡』高木晃氏の御教示による。          |
| 3  | 大円寺跡     | 岩村町  |         |    | 井上喜久男1982『岐阜県恵那郡岩村町大円寺跡出土の陶磁』『瑞浪陶磁資料館研究紀要』第1号 |
| 4  | 昼飯大塚古墳   | 大垣市  |         |    | 大垣市教育委員会2003『昼飯大塚古墳』                          |
| 5  | 尾崎城跡     | 丹生川村 |         |    | 丹生川村教育委員会1993『尾崎城跡発掘調査報告書』                    |
| 6  | 江馬氏館跡    | 神岡町  |         |    | 神岡町教育委員会1979『江馬氏館跡』                           |
| 7  | 東氏館跡     | 大和町  |         |    | 大和町教育委員会1984『東氏館跡』                            |
| 8  | 二ノ井遺跡    | 池田町  |         |    | 岐阜県文化財保護センター2000『南高野古墳・二ノ井遺跡・市場遺跡』            |
| 9  | 道場遺跡     | 恵那市  |         |    | 恵那市教育委員会1985『道場遺跡』                            |
| 10 | 重竹遺跡     | 関市   |         |    | 関市教育委員会1984『重竹遺跡3』                            |
| 11 | 角之御前遺跡   | 揖斐川町 |         |    | 小野木学1996『角之御前遺跡出土の中世遺物について』『美濃の考古学』創刊号        |
| 12 | 桧遺跡      | 大垣市  |         |    | 大垣市教育委員会1998『大垣市埋蔵文化財調査概要 平成9年度』鈴木元氏の御教示による。  |

## センター掲示板

### 平成16年度の組織

#### 財団役員

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 会長   | 梶原 拓(岐阜県知事)                |
| 副会長  | 原 正之(岐阜県副知事)               |
| 顧問   | 木村 建(兼理事)                  |
| 理事長  | 日比 治男                      |
| 副理事長 | 高橋 宏之                      |
| 副理事長 | 平光 明彦                      |
| 常務理事 | 福田 安昭(兼文化財保護センター所長)        |
| 理事   | 鬼頭 善徳(岐阜県教育長)              |
| 理事   | 木村 建(前岐阜県議会文化振興議員連盟会長)     |
| 理事   | 坂本 由之(中濃地域音楽療法普及協議会長)      |
| 理事   | 篠田 薫(小島信夫文学賞の会理事)          |
| 理事   | 篠田 英男(大垣女子短大デザイン美術科教授)     |
| 理事   | 杉山 博文(岐阜女子大学理事長)           |
| 理事   | 鈴木 誠(岐阜経済大学コミュニティ福祉政策学科教授) |
| 理事   | 竹内ゆみ子(NPO法人ソムニード理事)        |
| 理事   | 玉井 博祐(能楽師)                 |
| 理事   | 所 鳳弘(美濃草木染主宰)              |
| 理事   | 殿地 昇(岐阜県議会文化振興議員連盟会長)      |
| 理事   | 西村 貢(岐阜大学地域科学部教授)          |
| 理事   | 八賀 晋(三重大学名誉教授)             |
| 理事   | 松川 禮子(岐阜大学教育学部教授)          |
| 理事   | 山内 章裕(山岡町長)                |
| 理事   | 吉田 豊(岐阜県芸術文化会連会長)          |
| 監事   | 棚瀬 文晴(岐阜県参与)               |
| 監事   | 近藤 良一(岐阜県副出納長)             |

#### 文化財保護センター職員

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 常務理事兼所長 | 福田 安昭                  |
| 経営部     |                        |
| 経営課     | 課長 川瀬 崇敏               |
|         | 課長補佐 新田 雄一             |
|         | 主査 森 芳美、石原 啓之          |
|         | 事務専門職 古川 裕子            |
| 調査部     |                        |
| 調査第一課   | 部長 川部 誠                |
|         | 課長 大熊 厚志               |
|         | 課長補佐 山内 裕行、河合 洋尚       |
|         | 学芸主事 三浦 徹大             |
| 調査第二課   | 課長 藤岡比呂志               |
|         | 課長補佐 鶴飼 高男、林 芳樹        |
|         | 学芸主事 古屋 寿彦、三輪 晃三       |
|         | 事務補助員 近藤 大典、小野木 学、林 友美 |
| 飛騨出張所   |                        |
|         | 所長 小谷 和彦               |
|         | 管理監 森下 茂司              |
|         | 課長補佐 近藤 聡、平田 篤志        |
|         | 岡崎 敏彦、大宮 次郎            |
|         | 小淵 忠司                  |
|         | 学芸主事 澤村雄一郎、長谷川幸志       |
|         | 事務専門職 田口絵里奈            |

### センターの年間行事予定

#### <教育普及事業予定>

- 7/3(土) 岐阜県発掘調査報告会(飛騨市古川町公民館)13:00～
- 7/23(金) タイムスリップ探検隊 - 親子で発掘体験 - 東野遺跡(坂祝町)
- 7/28(水) タイムスリップ探検隊 - 親子で発掘体験 - 赤保木遺跡(高山市)
- 11/16(火) 発掘速報展(岐阜県博物館)
- ～12/19(日)
- 11/28(日) 発掘速報展記念講演会(岐阜県博物館) 奈良大学教授 水野正好氏

#### <現地説明会予定>

- 9月下旬 東野遺跡(坂祝町)
  - 10月上旬～中旬 野内遺跡(高山市)
  - 10月下旬 八幡前遺跡(美濃市)
  - 10月下旬～11月上旬 赤保木遺跡(高山市)
- \*日程が決まり次第、新聞やホームページ等でお知らせします。

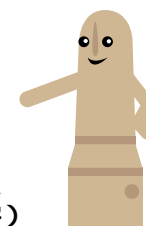


#### <展示予定>

- 県民ふれあい会館「生涯学習センター展示コーナー」(2階)
  - ハートフルスクエアG「キュービックギャラリー」(JR岐阜駅2階)
  - 徳山民俗資料収蔵庫(道の駅ふじはし)
- \*3つの施設で定期的に展示します。ぜひご覧ください。

### センター日誌

- 3/22(月) 理事会
- 3/31(水) 職員転退出者12名
- 4/1(木) 職員転入者6名
- 4/14(水) 整理作業開始
- 5/11(火) 国府町立国府小1年生遠足(飛騨出張所出土遺物見学)
- 5/13(木) 全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会開催・14(金)
- 6/9(水) 長良養護学校出前授業
- 6/15(火) 理事会



### あしがき

6月から新たに「県民ふれあい会館」や「ハートフルスクエアG」で、これまでの発掘調査で出土した遺物や写真を定期的に展示することになりました。ぜひご覧ください。また、出前授業や発掘調査、遺跡見学、整理作業などの体験学習も随時受け付けております。ご要望がありましたらご連絡ください。

5月から県内4か所で、事業者並びに地元の皆様のご協力を得て発掘調査を実施しています。大きな成果を期待しています。今年度もこの「あしがき」を通して、発掘調査の様子やホットな話題をお届けしたいと考えています。

ぜひ  
ご利用  
下さい

# センターの教育普及事業

センターでは、県民の皆様が発掘調査の成果をよりわかりやすく知っていただくために、次のような教育普及事業を行っています。

## 社会教育

- 発掘調査現地説明会（発掘調査現場や調査の成果を公開）
- 発掘調査報告会（前年度の県内における発掘調査についての事例報告）
- 発掘速報展示（出土した遺物の展示・説明）
- センター広報誌「きずな」（年3回定期発行）
- ホームページによる情報提供
- 考古学に関する講師派遣



中学校での出前授業の様子

## 学校教育

- タイムスリップ探検隊（下の欄を参照下さい）
- 出前授業（職員が学校に向向き授業を担当）
- 職場体験の受け入れ
- 歴史学習教材として遺物・写真資料等の貸出

考古学・発掘調査についてのご質問・ご要望は、当センターまでお気軽にご相談下さい。

## INFORMATION



平成15年度の様子(東野遺跡)

# 親子で発掘・整理体験！ タイムスリップ探検隊

## 参加者募集中！

- 対象 県内小学5・6年生とその保護者
- 参加費 無料
- 定員 計100名程度（各50名前後）

美濃コース

**日時** 平成16年7月23日(金) 午前9時～午後4時  
雨天順延（7月24日まで）

**場所** ひがしの東野遺跡（坂祝町）

**申込先** 〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1  
（財）岐阜県教育文化財団  
文化財保護センター三田洞事務所  
TEL 058-237-8550  
FAX 058-237-8551

飛騨コース

**日時** 平成16年7月28日(水) 午前9時～午後4時  
雨天順延（7月29日まで）

**場所** あかほぎ赤保木遺跡（高山市赤保木町）

**申込先** 〒509-4122 吉城郡国府町名張字峠1425-1  
（財）岐阜県教育文化財団  
文化財保護センター飛騨出張所  
TEL 0577-72-4784  
FAX 0577-72-4690

### 申込期間

住所・氏名（応募者全員）・電話番号・学校名・学年・性別・希望コース名を明記の上、7月12日(月)までに葉書・FAX・メールのいずれかでお申し込み下さい。

## Center News

ホームページ  
<http://www.maibun.gifu-net.jp>

**三田洞事務所**  
 〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1  
 TEL. 058-237-8550(代) FAX. 058-237-8551  
 e-mail: gifu@maibun.gifu-net.jp

**飛騨出張所**  
 〒509-4122 岐阜県吉城郡国府町名張字峠1425-1  
 TEL. 0577-72-4784(代) FAX. 0577-72-4690  
 e-mail: hida@maibun.gifu-net.jp